

監訳の序

「スピーキング・スピーチ」力：コミュニケーション・対人関係・患者ケアのカギ、そして英会話を楽しむコツ

アメリカ在住で日本を愛する医療者・教育者として、Dr. Little の本書は“MUST”です!!! それはなぜでしょう？

1. 医療においてコミュニケーション・対人関係などのためにスピーチ力は必須.
2. Global health and medicine の習得にEnglish Speech は必須.
3. 将来を担う・世界に羽ばたく皆さんには必須.
4. 優れたスピーチで自信がつく.
5. そして何より、English Speech が楽しくなる.

「医はサイエンスと同時にアートである」ことは皆さん認識されておられますが、それを実践する医師ら医療者の育成にも、① Medical knowledge や② Patient care といったサイエンス面ばかりでなく、③ Professionalism, ④ Self-improvement, ⑤ Interpersonal skills, ⑥ System-based practice といった医のアート面にもかかわる項目も確実に教育し評価しないといけないはずで、これらの6項目はACGME (Accreditation Council for Graduate Medical Education, アメリカの卒後臨床研修評価認定機構, <http://www.acgme.org>) が定めた研修のゴール (Outcome, Competency) のスタンダードです. 特に Communication/Interpersonal skills には当然必要ですが、その他の5項目習得にもスピーチ力上達は不可欠です.

また昨今、海外に飛び出る日本の若者が少なくなったと聞き心配しています. 最近 (このIT時代にもかかわらず), さまざまな (医療以外の) 分野でグローバル化や国際基準, 海外からの日本侵入が進み, まさに黒船襲来, 鎖国日本の開国要請といったことを感じるのは, 海外から日本を見ている私だけではないはずで、国内での

医療でも Global health and medicine の習得は必要で、その観点からアジア各国と比し日本は、海外の優位点を迅速に導入する（改革する）ハングリーさに欠けています。Globalization は日本の Americanization でもなく日本がその荒波に飲まれることではありません。日本には医療などでも優れた面や人材があり、世界のよい面・標準を受け入れるとともに、日本の素晴らしい面を世界に発信することこそ Globalization と捉えてほしいです。日本国内の現状に安住せず開国するには、今後の日本を担う皆さんが自ら海外に出る・世界に羽ばたくことが必要でしょう。そのためには英語スピーキング能力・スピーチ力は必須です。

本書で Dr. Little が説いている①エートス（Credibility, 信頼）、②パトス（感情）、③ロゴス（論理）を習得し状況に合わせて適切に適時活用することで、皆さんのスピーチはより効果的・魅力的となることでしょう。それは皆さんのプレゼンテーション・コミュニケーション・学会発表、更には日常会話の上達に繋がり、それが自信となります。その自信はさらに皆さんの Credibility（信頼）を高め、スピーチの好循環を生みます。何より English speaking/Speech がエンジョイできるようになります。

さて皆さん、本書を Ready to read, そして Ready for speech!!!

2012年11月

ハワイ大学医学部外科教授
野口英世記念米国財団法人野口医学研究所理事長
東京ベイ・浦安市川医療センター（Noguchi Hideyo Memorial
International Hospital）NKP 研修委員長
町 淳二